

白友会会報

No. 8

平成18年3月

編集責任者
城戸滝枝
大阪医科大学
附属看護専門学校

新校舎完成特集号

祝 大阪医科大学附属看護専門学校 竣工式典



大阪医科大学附属看護専門学校新校舎竣工に寄せて

看護専門学校長 勢川 瑠美子

大阪医科大学附属看護専門学校は、昭和4年に大阪高等医学専門学校附属として設立され、70有余年の歴史をもつ看護専門学校として今日に至っております。この間、看護制度の変遷や法改正などの時代の波を乗り越えながらも、本校の伝統は脈々として看護の精神に生かされ、多くの卒業生が優秀な人材として地域医療、福祉、保健看護の第一線で活躍をしております。教育の場であります校舎は、昭和39年12月に現在の「高槻市八丁畷町3-3」に鉄筋3階建が竣工するまでは、大学構内を転々と移動し、校舎といえるようなものではありませんでした。現在この八丁畷町の校舎では第一看護学科の学生が学び、さらに昭和50年には本学創設時に建築されました別館を大改装し、現在第二看護学科の学び舎となっております。

21世紀に入り大阪医科大学の飛躍発展のための構想が次々とうちだされ、その一環と永年の懸案でありました看護専門学校校舎の建設が実現することになりました。時代のニーズに沿った質の高い看護職者育成のための教育環境を整備するとともに、近き将来4年制大学への昇格も視野にいれたビッグプロジェクトでもあります。待望の校舎は基本構想通り夢と希望を与えてくれます。時、恰も酉年、本学が院外にむけて大きく飛躍するのにふさわしい姿を見せてくれております。ここに、法人の御理解と御尽力、そして多くの方々の御支援に心からの感謝を申し上げます。

平成17年3月

祝 大阪医科大学附属看護専門学校 竣工式典

平成17年3月25日(金曜日) 午前10時30分より

テープカット式



学校法人 大阪医科大学 理事長 國澤 隆雄 様
 学校法人 大阪医科大学 相談役 田中 忠彌 様
 学校法人 大阪医科大学附属看護専門学校
 学校長 勢川 瑠美子 様
 株式会社 日建設計 常務執行役 降井 繁蔵 様
 株式会社 銭高組 代表取締役社長 銭高 一善 様

竣工式

開 会

挨拶 学校法人 大阪医科大学 理事長 國澤 隆雄 様

来賓祝辞 高槻市役所 市長室公室理事 山本 政行 様

大阪府看護協会 協会長 高森 勝子 様

設計概要・経過報告

株式会社 日建設計 設計室 室長 藤記 真 様

感謝状及び記念品贈呈

株式会社 日建設計 常務執行役 降井 繁蔵 様

株式会社 銭高組 代表取締役社長 銭高 一善 様

謝 辞 学校法人 大阪医科大学附属看護専門学校

学校長 勢川瑠美子 様

閉 式



新学校長紹介



大阪医科大学附属看護専門学校

学校長 佐野 浩一

白友会の皆様には初めてご挨拶申し上げます。白友会会員ご一同様には、日ごろのご活躍のほど心強く拝見いたしております。

昨春に大阪医科大学附属看護学校長を拝命いたしました。ご挨拶が遅れましたこと、紙面を借りてお詫び申し上げます。私が就任するに至ったおおよその経緯と、今後の皆様の母校の発展について、紙面の許す範囲でお知らせし、ご挨拶とさせていただきます。

私がまだ医学生であった頃、前校長勢川先生に会い、医師の立場と看護師の立場についてお話を伺った記憶があり、医師と看護婦(現在の看護師)との連携について熱く語られていたことを思い出します。

その後、看護専門学校の非常勤講師を永年勤めさせていただき、勢川先生から、改めて看護師養成と医師養成の違いについて教えていただきました。その内容は今で言う「careとcure」についてでありました。その後、医学哲学倫理学会が本学で開催されたときに、先生とごいっしょに組織委員としてお仕事をさせていただき、様々なご指導を頂き、以来、先生は思ったことを何でも言ってくださるし、私も何のわだかまりもなく好き勝手を申し上げつつ成長させていただいたように思います。私よりもさらに身近に先生の教育を受けた看護師はあまたの数に及び、関係各所で指導的立場にたって活躍しておられます。私には人を育てるという

意味での先生のご功績を間近で拝見できたことに、こころから感謝しておりました。

そのような折、校舎建築計画が大詰めになった頃、勢川先生より次期学校長に推薦したいとお言葉を頂きました。勢川先生の後任に就くことは、小生にとって大山を背負うに等しいことで、到底不可能なことに固辞いたしました。白友会の皆様の後輩を育てる任を仰せつかることになったものの、その任はあまりにも重く、勢川先生はじめ識者の皆様にご相談申し上げ、無理をお願いして副校長制をとることにさせて頂き、西山裕子先生にご就任頂きました。看護教育が多様化する中で、現行の教員組織の再編成は不可避であり、現在さらに検討を進めているところであります。

さて、1年前に竣工した新校舎に新入生を向かえ、日々看護教育に力を注いでいるところではありますが、国は医療や教育分野の高等教育は4年制とすることが望ましいとしており、やがて皆様の母校も4年制の看護教育機関に移行するものと考えております。4年制化に際しては、本校の伝統を保ち、理論に裏打ちされた実践力のある看護師を世に送り出すことを重視したく、その準備に入ろうとしているところであります。卒業生の皆様より暖かいご指導・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

末筆になりますが、大阪医科大学附属看護専門学校およびその前身の卒業生は3,500人を超え、その同窓会である白友会の会員数は2,007人と何っております。卒業生は全国各地でご活躍されており、私ども学校といたしましても心強く、また嬉しく拝見しております。今後も白友会の会員数が増え、皆様の親睦がさらに深まりますよう、お祈り申し上げますとともに、改めて母校への暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新校舎 講堂落成記念講演
 大阪医科大学での53年をふり返って
 ～出会いと調和を基盤に～



学校法人 大阪医科大学附属看護専門学校
 前学校長 勢川 瑠美子

これまでの大阪医科大学での53年間、半分は教育、半分は看護の現場で経験してきました。その中で私が大切にしてきた基本的なことをここで伝えておきたいと思います。

私は台湾に生まれ、終戦に伴って中学生の時に和歌山の叔母を頼りに引き上げてきました。これからの時代は女性であっても手に職をつけることが必要と看護師であった伯母に勧められ、昭和25年大阪医科大学看護学校の新制度1期生として入学しました。卒業後は小児科外来主任として任命され、亡き異教授に出会い勤務しながら4年間の大学生生活を兼ねることができました。卒業後は基礎看護教育の場に移り多くの学生に出会い関わってきました。より質の高い看護を提供できる近き将来の職業人を育成するためには、課せられた者の責任は大きく、与える者の質が問われます。根底に人間性の良さが大切であり、豊かな人間性の上に培われた看護観を持っていることが必要となります。一般教養を土台とし豊かな感性、センス、更にその上に人間理解を根底にした専門職としての知識・技術・態度、それが行動として表現される必要があります。つまり、専門職業人として資質と人間的魅力である、その人の生活環境、習慣、生活のしかた、物の見方・考え方など生き方全てが含まれてくるのです。それは各々の成長段階や職務に合わせて、自己評価で満足であっても常に他者評価を受け、知識・技術・態度の側面から補習され、改革努力し続けていく姿勢を持つことが重要となります。

看護を考える時に大切なことは、まず、今医療を取り巻く環境を知ること。時代の変革、スピーディーな医療の変化、例えば医療費の抑制のしくみや、量から質への変化、マンパワーの育成など何がどのように変わっていくのかを見極めていく必要があります。また、看護実践の中で発展させることのできる能力を養い、自己の看護観を明らかにして看護現場を実践に生かすには看護する中で大切にしてきたことを見つめ直し、看護の本質、看護の役割を自分なりに表現して、自己の看護観を確認するのです。看護はつまるところ“what is nursing?”「看護とは？」の追求なのです。実践のために「看護とは」を再考すること、「看護とは？」をもう一度問う、改めて問う、繰り返し問う、あるいは問い続けることのすすめなのです。看護観とは看護を専門とする者として、共通した看護現象の見方であり、看護を展開するときの「専門的判断や行為のものさし」となるもので、患者によりよい看護ができるか否かは自分の看護観によります。その看護観は今一番患者が望んでいること、その患者のニーズを満たしているかどうかであり、日々臨床の場にお

いて、問い問われる中で確立していくものなのです。

私の看護とは、先ずナイチンゲールの看護観と同様に、病人の生命力の消耗を最小にするようにその生活過程を整えること、二つ目には患者中心に患者の必要とする部分への援助を行い、そしてその責任がとれるということ。三つ目には患者や家族が自己の身体への気づきを深め、その療養を自主的に実践していけるようにセルフケアへの援助をすることです。臨床でも教育でも相手を教育しプラスへ変容させ、相手に教育されることで自らも変容することです。それらの全ての考えの基本になったのは、その時々素晴らしい方々との出会いがあり、出会いによって素敵な調和が保てるように心がけてきたことにあります。多くの方々との出会いの中で自分にはないものはたくさん吸収し、自分に取り込むように努力してきました。人生における生き方に必要なバランス感覚を養うようにすることは、いくつになっても必要なことと思います。精神面は勿論知育・体育・徳育共々、時には穏やかに、時には厳しく、時には無邪気に、できるだけ格調高く、エレガントに育てることができたのは多くの人々との出会いがあったからと思っています。

今後ますます厳しくなっていく医療界にあって、これからの看護管理者としての基本は、管理的なものの見方として与えられた条件の下で最適の方法を選択して最大の効果を上げることを考えることです。管理していく上で大切なことは、管理は型にはまったものではなく、ごく自然でなければならず、型に入って型から出ることを基本にする必要があります。そして看護職者として求められることは、先ずヒューマンケアを提供できる人間性を持つことと、情報の選択として必要な情報の提供があります。そしてそれぞれの業務範囲を知った上で連携、協働を可能にする調整役としての中の広さ、指導性、インフォームド・コンセントの実施と徹底、そして看護の質を上げるために支えてくれる多くの学問へトライする姿勢を持ち続けることが必要だと思っています。自己を磨くことは、20代の方は今の在り様がその後の人生に影響を与えると言われていまして、経験者は内面から滲み出るように後姿で教導することに繋がっていきます。常に心、人間性を磨く、教養を高める、人間が好き、好奇心、チャレンジ精神を持つことが大切です。完全・完璧はありません。常に最高であり最善であることを求め、少しでもよりよくを目指して努力していくことが私たちに課せられ求められていることだと思っています。

この仕事のピリオドを打つことはできません。これからもからだ、こころを柔らかくしてチャレンジし続けることを忘れないで生きていきたいと思っています。



情報処理室



廊下から教室を見る

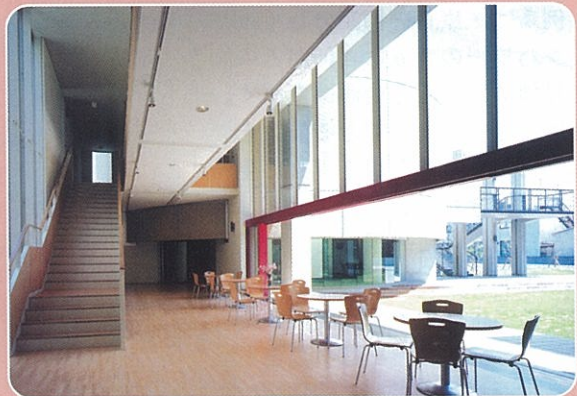
構
内
縦
覧



講堂(ステージから見る)



オープンゼミ



学生ホールと中庭

ナイチンゲール生誕祭 05/05/11 (水)

5月14日のナイチンゲール生誕を祝って行われる本校独自の生誕祭は、今年で十五回目になりました。一生懸命ラッピングしたピンクのカーネーションを、参加した一人ひとりがナイチンゲール像に献花した後、各クラス代表の「看護に対する思い」の発表をしました。

看護師を目指した理由や、実習を通して学んだこと等今の自分を振り返っての発表は、皆堂々としていて初心を取り戻すことができました。その後、「ナイチンゲールの業績と歴史の紹介」があり、建築家としてのナイチンゲールが紹介され、ナイチンゲール学校の写真など興味を持って学ぶことができました。

式典終了後、自作のメッセージカードを添えて花束を持ち、上級生、下級生を交えたグループで附属病院に入院中の患者さんの所へ訪問しました。お見舞いの言葉もそこそこに「良い看護師さんになってね」と反対に激励される場面もあり、患者さんとの暖かい交流の時間となりました。一年を通して企画・運営した委員の人たちの努力の成果が感じられたよ



特別講演「国際人って何？」 05/04/27 (水)

桂 小米朝先生

特別講演は、他分野の専門家の話を聴くことで社会的視野を広げる目的で様々な企画で毎年行っています。今年は特に新講堂で初めての講演会となり、作家の“桂小米朝さん”をお迎えして「国際人って何？」というテーマで話を聴きました。作家の一面だけでなく、経済や音楽という多彩な才能からの内容で、学ぶ者の姿勢、最初が大切であることなどメッセージをいただきました。



特別講演
「国際人って何？」
桂 小米朝 先生



戴帽式 05/10/07 (金)

午後1時から、看護専門学校講堂におきまして、新講堂で初めての戴帽式が例年の倍の83名(内、男子1名を含む)の1年生を対象として、来賓ならびに保護者の参加のもと厳粛に挙行されました。

23回生全員で検討した誓いの言葉では、

- 一、確かな判断力と指導力を養い、患者中心の看護を提供し、常に思いやりの心をもって笑顔で任務(つとめ)を果たすことを誓います。
- 一、探求心を忘れず、何事にも前向きに行動し、初心を忘れない看護師を目指すことを誓います。
- 一、生き方として看護職を選んだことに誇りをもち、生涯、看護の心を忘れず向上し続けることを誓います。」と斉唱し、決意を新たにしました。

このことは、高槻市のホームページや05/09/19付の産経新聞朝刊にも掲載されました。



募金委員より

お蔭様で新校舎も予定通り完成し、素晴らしい環境の中で新たな看護教育が稼働しております。募金も皆様のご協力のお蔭をもちまして、第一段階の目標額に達成いたしました。しかし、最終目標にはまだまだでございます。引き続きご理解、ご協力を頂きますようお願いいたします。募金に関しましてご不明な点がございましたら、ご遠慮なく事務局へお問い合わせください。また、お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

事務局

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7番6号
電話 (072) 684-0871
FAX (072) 682-5632
E-mail: kango@art.osaka-med.ac.jp

よ　う　こ　そ　先　輩

特別講義『私の体験したアメリカ看護』を終えて

3年課程 9回生 式地 洋子



式地 洋子 さん

1994年本校第一看護学科を卒業後、大阪医科大学附属病院に就職し、耳鼻咽喉科・口腔外科病棟で3年間勤務する。その後渡米し、フロリダ州立短大セミノールコミュニティカレッジの英語学科、一般教養学科を経て看護学科に進み、2003年卒業し、フロリダ州看護師試験に合格する。卒業後、フロリダ州 キシミー・オセオラリージョナル・メディカルセンターで正看護師として活動しておられます。

日本の看護の現場から長年離れ、私自身が持つ、現日本看護の認識が、昔知っていたものとかかなり違う中で、草稿に対するご指導、学生さんからのアンケートのご協力、感想文の送付など、大変感謝しております。

今回、講義の依頼をいただきまして、こんな機会はめったにないと思いきい不束ですがお受けいたしました。お話をいただいた際、こんなに大勢の前でお話しするとは思っていなかったもので、200人の学生さんと、学生時代にお世話になった指導者、先生方を前にお話できるかと少し不安もありましたが、今では自慢できる思い出となりました。帰国後、同僚にも報告し、彼らも大変喜んでいました。講義をするにあたり、学生さんが対象なので余り専門的な内容にせず、アメリカでの看護学生生活から看護師としての現状について話をしました。それ以上に何年か前には同じ学生であった私が、こうして今までの経緯を話すことで、学生が専門職としてだけでなく、人としても何か「ヒント」を見つけてもらえればと思いました。しかしながら、私の思っていたその「ヒント」は結局私にいただくことになりました。学生さんの一生懸命聴く姿勢と素直な反応に感動し、準備段階では自分自身の今までを振り返ることができ、私の原点に戻ることができました。もう一度看護師としての自分のあり方を見つめるとてもよい機会でした。これからも看護師になることが夢だった学生の頃の新鮮さを忘れることがないようにしていきたいと思っています。

私自身アメリカでの看護経験がまだ少なく、色々悩むこともたくさんあります。そんな時は学生さんからの感想文やアンケートを読み返して、彼らが今ナースになるために頑張っていること、悩んでいることを思い出し「私も頑張ろう」とまた気持ちを新たにしていきたいと思っています。そして、皆様の記憶のはしに遠くの国で同じ学校の出身者のだれかが働いているのだと偶に思い出していただければ幸いです。

これからの学校の益々のご発展をお祈りしています。

同窓会

3年課程 9回生 三浦 由美子

年々人数が減り、当院に在職している同じクラスの友人が三人となったある日。その中の一人の友人に看護師食堂で会い「久しぶりにみんなに会いたいね」… そんな会話がきっかけだった。卒業して11年、クラスの数人の友人とは時々会っていたが、会っていない友人はたくさんいた。みんなどうしているかな…？ 想像しただけでワクワクした。「ねえ～、同窓会しようよ」私のそんな言葉を友人は快く受け入れてくれ、その後はみんなの協力のもと同窓会を開催することとなった。

当日はあいにくの雨… でも心はみんなに会える楽しみで晴れ晴れとした気分だった。みんなどんな風になっているかな？ 私老けたかな？ そんなことをいろいろ考えながら現地に向かった。行く途中で目の前の横断歩道を西山副学校長と誰かが横切るのが見えた。西山副学校長は元私たちのクラスの担任である。当日も参加してくださるということだったので一緒に歩いているのはクラスの友人ではないかと、私の隣にいた友人と二人で誰なのかと興奮しながら話した。横顔と後ろ姿しか見えなかったが、昔の面影ではこの人ではないか？ でも11年も経

っているのだから昔のままではないだろう… などと言いながら信号が青に変わると急いで現地に向かった。現地には、数人の友人が早々と到着しておりみんな声を弾ませながら再会を喜び合った。やせたり太ったりの多少の変化はあるもの



の(太ったのは私ぐらいだが…)みんな相変わらず昔のままだった。子供も参加可能としていたため子連れの人でも数人いたが、昔と変わっていない友人が子供を育てて母親をしているのが不思議なくらいだった。おいしい食べ物が並び飲み放題であったが、みんな久しぶりに会った嬉

しさに飲み食いはそのそこに話が弾み、あっという間に時間が過ぎた。

食事会の後は、新しくなった学校見学をさせていただいた。みんな自分の学校生活を思い出しながら、あまりの設備のよさに羨ましくもあり我が母校の発展に喜ばしくもあった。自分はもう一度入学することはできないが、自分の我が子という将来の展望を抱いていた友人もいたのではないかなと思う。

今回参加したのはクラスの約半数であった。参加したくても個人的な事情で参加できずに残念がっている友人もいた。今回は身近な友人がまた更にその身近な友人を誘って…という形で情報を広げ大勢が参加した同窓会となった。11年経ってもみんなどこかですとつながっていると実感することができた。共に励まし合い時にはぶつかり合いながら同じ道を目指して頑張っていたあの頃のことを思い出しながら、このクラスの一員になりみんなに出会えて本当によかったと心から感謝した。大切な宝箱を久しぶりに開けてみた…そんな一日だった。

新入会員紹介

(平成17年度卒業生) 第一看護学科 21回生 40名

浅葉 まゆか	滝 真実	本城 寛子
上拾石 みほ	玉田 訓子	前田 鮎美
上原 友美	寺田 亜有美	松浦 正代
太田 悦子	中山 里紗	松岡 瑞穂
太田 恵里子	西岡 奈津子	三浦 亜貴子
岡田 京子	長谷川 まゆみ	宮里 美紀
小野 麻帆	畑 佑佳	望月 英美
河内 直美	花田 仁美	山崎 奏
川島 洋子	林 美果	吉田 真希
草野 優	平野 陽子	吉永 雅美
小南 沙絵	福山 亜弥	
坂本 望	藤田 佳那	
妹尾 由香子	藤原 瑛子	
副島 和美	堀 香奈江	
高橋 明子	堀 井 七緒	

(平成17年度卒業生) 第二看護学科 37回生 43名

池田 亜美	坂田 恵理	藤林 紗希
井上 麻衣	篠原 幸代	佛生 梓
井上 真理子	神保 有香	文田 歌慧
井上 喜美	高橋 麻希	文元 美賀
榎田 美香	高橋 良子	水上 由貴
大西 恵子	竹尾 砂奈江	水船 美津子
大西 由記	田先 加奈	水道 春香
尾崎 利江子	田村 真代	道本 直子
梶 充季	友久 綾子	宮田 麻衣子
鐘ヶ江 春香	中川 由香利	山口 貴美子
金子 千恵	仲曾 麻美	山根 菜穂子
河邑 真衣	中田 久美子	山本 由貴
北川 友子	濱口 佳子	山渡 邊恵美
桑田 麻理	日野 誘巳	
児玉 裕子	平田 佳子	

第1回 学校祭・白友祭 開催のお知らせ

テーマ：愛と敬意でふれあいをもって
—看護で広げよう地域の輪—

日時：平成18年5月13日（土曜日）
10：00～16：00

場所：看護専門学校

記念講演：14：00～15：00

テーマ：戦国女性の生き方を考える
—山内千代を例として—

講師：京都橘大学 学長 田端 泰子氏
日本中世の社会と女性を中心に研究される
文学博士。

NHK大河ドラマ“巧妙が辻”でおなじみの
「山内一豊と千代 戦国節の家族像（岩波
書店）」等、女性を中心に描いた著書多数。

- ・新校舎を活用して、模擬店・バザー・演奏会
などのプログラムを多数予定しています。
同級生とご一緒にご参加ください。
お越しをお待ちしています。

編集後記

暖冬の予想に反し、寒い冬も過ぎ、日一日と春を
感じるこの頃ですが、会員の皆様にはお元気でお過
ごしのことと推察致します。

今回は「新校舎完成特集号」をテーマとし、竣工
式典・学校行事などでまとめてみました。

本校第二看護学科（二年課程）は、3月9日に最後
の卒業生を送り、3月末日をもって閉鎖致しました。
昭和33年全国に先駆けて全日制二年課程を開校し、
途中時代の要請を受けて定時制に変更致しましたが、
昭和50年全日制を再開し、設置認可以来39年間の
看護教育に携わり、1,774名の卒業生を輩出するこ
うことができました。この間皆様より戴きましたご厚情に
心よりお礼申し上げます。

既に決定していたとはいえ、第二看護学科卒業生
の皆様の心中を察すると淋しい思いを禁じえませんが、
今後も引き続き三年課程の基礎
看護教育に最善を尽くして
参る所存でございますので、
皆様のご指導ご協力をお願い
申し上げます。

T.J



*白友会ホームページへのご案内

看護専門学校ではホームページの中で、学校の案内や学校の
状況などタイムリーに情報をお伝えしています。

白友会のページも掲載していますので、是非ご覧ください。

白友会のアドレス

<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/kango/uc.html>

訃報

山口 文子様

旧制看護婦学校 昭和15年度卒 11回生

渡壁 朱実様

准看護婦学校 昭和43年度卒 14回生

二年定時制 昭和48年度卒 7回生

謹んでご冥福をお祈りいたします